

香 川 大 学

I. 実 施 報 告

(1) 実施責任者報告

香川大学生涯学習教育研究センター長 植松 辰美

1. 放送公開講座の大学における位置づけと放送局その他の関係機関との協力関係について

四国地区の国立7大学では、昭和61年度から四国地区全域を対象に、大学の教育、研究の成果を広く地域社会に開放する事業の一環として、テレビ放送を利用した大学公開講座が共同で実施され、また、平成2年度からは、さらにラジオ放送による大学公開講座を実施している。共同の実施体制としては、四国地区国立大学長会議のもとに同地区国立大学放送公開講座検討委員会が設置されているが、同検討委員会のもとで、7大学の中から輪番制で、その年度の放送公開講座の運営、実施にあたる大学を実施大学に決め、他大学はこれに協力する体制をとっている。

平成3年度ラジオ講座の実施大学である本学では、学内の「放送公開講座実施委員会」のもとに「放送公開講座専門委員会」を組織し、13回の講座内容を決定し、広報、テキスト作成、番組作成に当たった。

次に、番組を制作する放送局との関係については、まずテキスト原稿を作成し、それをもとに本講座番組企画構成について、放送局側と担当講師で意見交換を行い、番組制作を進めていった。番組作成においては、担当講師の意見が尊重され、局側は放送番組作成の専門家として、それを援助する姿勢であった。

最後に、四国地区では放送公開講座の実施を四国4県の全域に周知させるため、各県教育委員会に後援を依頼するとともに、各県ごとにマスメディアへの広報活動を展開してきた。

2. テーマの選定とそのねらいについて

四国に関係のあるさまざまな「道の文化」を歴史的・多角的に、把握し、解説を試みる。

「道の文化」がわれわれの現在の生活の基礎を形成し、日常生活に深い影響を与えていることを学びとるとともに、さらなる文化の創造に向けて考察を進める。そして、豊かな文化とのふれあいを通して、うるおいのある地域づくりの道を探る。

3. 番組、印刷教材、学習指導の関連づけについて

放送番組と印刷教材は、互いに相補的關係になるように配慮した。しかし、いずれか一方を独立に用いても学習効果があがるように留意した。学習指導においては、この両者についての質問について回答し、なお番組と教材についての補足的説明を行う。

4. 番組の学習効果について（講師の印象、受講生の反応等から）

受講生のアンケート調査の結果がまとまっていないので、まだ何ともコメントできないが学習指導会場における受講生の質問や発言から類推すると、放送公開講座に対する受講生の熱意や期待の強さが十分うかがわれた。

5. 印刷教材の作成過程について

- ① 「ラジオ講座テキスト執筆要項」に従って、各講師がそれぞれ原稿を作成した。
- ② テキスト作成会議を開催し、編集を行った。
- ③ 編集責任者（主任講師）が原稿をまとめ、全体調整を行った。
- ④ 印刷原稿の校正に関しては、執筆者が初校、再校を行い、編集責任者（主任講師）が三校を行った。

6. 学習指導の実施状況について

（実施日時・会場・出席者数・出席率）

ラジオ講座		第 1 回			第 2 回		計	
	実 施 日	平成 4 年 1 月 26 日（日）			平成 4 年 2 月 2 日（日）			
	会 場	香川大学	徳島大学	愛媛大学	香川医科大学	高知医科大学		
	出席予定者数	270名	130名	123名	14名	61名		598名
	出 席 者 数	58名	22名	41名	2名	14名		137名
	出 席 率	21.5%	17.0%	33.3%	14.3%	23.0%		22.9%

7. 「大学教育の地域社会への開放」に果たす役割について

本学では、昭和53年度に大学教育開放センター（平成3年4月生涯学習教育研究センターに改組）を設置して以来、毎年20講座程度の大学開放（公開）講座を開講し、年間約800名の受講生を集めている。

放送公開講座は、放送というメディアによる方法を付加するものであり、受講対象の地域的、時間的拡大、講座内容の情報量、理解度、訴求力などを深化するうえで有効である。

8. 「大学の授業への活用」の状況と今後の可能性について

大学授業への活用については、その可能性について現在検討中である。

9. 実施上の問題点と今後の課題等について

四国地区の放送公開講座の実施大学として、講座の企画、運営にあたったが、四国全域という広範囲な地域を対象にするため、学習指導は放送終了後、修了式を兼ね一度しか実施出来ないのが現状であるが、講師と受講生とのコミュニケーションを深めたり、学習効果を高めるために、学習指導をせめて2回ぐらい開催できる体制整備が求められよう。

また、継続して今後も学習を行いたいとの希望に対して、どのように対応すればよいか、検

討すべき課題である。

(2) 科目担当主任講師の所見

(ラジオ科目) 道の文化

主任講師：教育学部教授 渡辺 安男

1988年4月、瀬戸大橋の架橋によって、四国に暮らす私たちの日常生活には、これまでとは違った面がいくつか見られるようになった。例えば、大阪や広島への日帰り出張ができるようになったとか、県外ナンバーの車を多くみかけるようになったとかである。これまで海によって隔てられていた陸地と陸地とを繋いだ一本の道が、人や物や文化の交流を変化させている。できるだけ早くできるだけ多く人や物を運ぶ、経済上の変化や環境の変化だけでなく、日常生活における者への感受性や生活リズムなどの内的な諸相にも、何らかの変化を受けているに違いない。

一本の道がもたらす私たちの生活の変化を見るとき、人々と道とのこれまで培ってきた関わりを、時間の推移や空間の広がりの中で確かめておきたい、そして未来を展望したい、それが、この講座を企画する出発点であったように思う。

主として担当することになった教育学部には、人文・自然・芸術・技術など、各方面の多彩な人材を擁している。道によって文化が伝えられてきた、あるいは、文化を創り出すために道を切り拓いてきた営みを跡づける・・・「道の文化」の語り部となる人たちの枚挙にいとまがなかったことは、この企画を推進する私たちの幸せであった。

(テキスト『道の文化』あとがきより)

放送がはじまると、校内であるいは市中で、「放送を聴いていますよ」と声をかけられ驚いたことが幾度かある。こちらから顔の見えない多数の人たちへ働きかける放送というメディアの力を感じさせられた。

今、振り返って、講座を担当して最も苦勞したことは、13回の講座を貫く縦の関連をどうとるかということであったように思う。専門領域の異なる13名の講師による講座内容を、一つの「道」によって関連づけるためには、地理にいう「道」だけでなく、あるときは歴史的な文化伝達の「道」として時間的なつながりの中で、またあるときは空間的な文化の伝播を跡づける「道」として、四国という地理的・社会的特性を持つ地域文化をとらえ、それを話題に乗せようと試みたつもりである。

番組を終えてまだ間がなく、わたしたちの意図がどこまで生かされたか十分に把握することはできていないけれども、担当講師をはじめとして放送局のディレクターならびに事務職員のご協力を得て何とかたどりつくことができた思いを抱いている。心から感謝したい。

Ⅱ. 制 作 報 告

(1) 制作責任者報告

西日本ラジオ制作部長 細溪 喜一

1. 番組制作の基本方針と大学その他の関係機関との協力関係について

四国に関係のある様々な道の文化を歴史的・多角的に把握し、解説を試みる。

「道の文化」が、我々の現在の生活の基礎を形成し、日常生活に深い影響を与えていることを学びとると共に、さらなる文化の創造に向けての考察を進める。

そして豊かな文化との触れ合いを通じて、潤いのある地域づくりの道を探ることを基本方針とし、香川大学とは親密な協力関係を結び、番組の質的向上に努めた。

2. 番組の企画、構成及び制作上の工夫、特色等について

ラジオというメディアの特色から、「道の文化」は、画面が無い分表現などに努力を要した。

取り立てていほどの工夫や特色はないが、アナと講師とのやり取りを多くするなどリスナーが聞き易く、また取り組みやすいよう、音楽などを利用し、バラエティー性を持たせたが、テレビと違い画面処理の部分がないので、リスナーの理解度が問題になるのではないかと懸念もしているが、不特定多数のリスナーに高度な教養番組として聞いて貰えたのではないかと自負もしている。

3. 番組の視聴状況と成果（評価、反応）について

聴取率調査が西日本放送では年1回であり、当番組放送中は調査が行われないので、詳しいことは分からない。しかし、「大学公開講座はいつからスタートするのか」「内容はどんなものか」との問い合わせの電話などから、かなりの人々に聞いて貰えたものと思っている。評価として具体的に示す資料はないが、訪れる人や電話などでの反応は大好評である。

4. 実施上の問題点と今後の課題等について

西日本放送の今後のラジオ講座は香川医科大の担当となるので、ラジオ制作をどのようにするか今から苦慮している。画面がないだけに、訴える力が減る分なにをもってカバーするのが今後の課題である。

(2) 番組制作担当者の所見

制作担当者：西日本放送ラジオ制作部 斎部 紘子 西原 穰

*これといった学術的番組の制作経験も蓄積もないまま、今回これを担当する事になり、最初には全く自信はありませんでした。一方の大学側も、これだけ大がかり(?)に、学校をあげて、

民間放送と企画制作するというのも初めてらしく、初顔合わせ段階ではおたがい、「相手に任せれば何とかなるだろう」と思っていました、やがて「番組の責任は、最終的に局側」と私自信気がつき、途中から「先生方におぶさってはいけないナ」と頭の切替えをして臨みました。

さて、大学が選んだ今回のテーマは「道の文化」。このテーマは、道德・教え・すじみちなど、「精神的な道」もあって広範囲になりますが、実際の題材は、生活に密着した昔からの「道路」が主役でしたので、非常にわかりやすく、親しみあるテーマだったと思います。

これより前、徳島大学の場合、二人の先生が13回の講座を受け持ったのに対し、香川大学の場合、13回の講座を12人の先生が担当するという事、つまり、「自分の得意の分野」で「全員参加を！」という意図だった訳ですが、それだけに、前後のつながりがあまりない。「毎回読み切り」の番組になりました。

また「道」そのものについても、「昔、そういった道がありました」という歴史・考古学な内容に終った面もあり、「現代と関連づけなくていいのだろうか？」と、個人的には気になりながら、その事について最後まで、大学側と話し合う機会もありませんでした。

また、30分という時間の制約から、四国全般にまで話が至らず、他局に配慮が足らなかった箇所もあり、多少気がかりですが、とにかくテキストに忠実な先生あり、反対にテキストの記載はないが、特別な放送用の台本を作った先生ありと、沢山の先生ひとりひとりに合わせて、色々な演出ができたのは、初体験であり、作り甲斐もありました。

*番組制作案がまとまり、具体案づくりに取りかかった時点で一つの問題点が生じました。番組の中で「聞き取り調査資料」や「関係者の証言」を挿入しようと思っても、音がないのです。

先生方は、著書として記録する事に慣れていても、録音して実音を残すという作業は考えた事もなかったようです。貴重な資料の部分を音で表現する為に、香川県、各市町、識者、報道機関などを訪ねましたが、いずれも「文献」の保存が中心でした。例えば、仕事歌などは、時の流れと共に歌われなくなったり、経験者も高齢だったり物故者だったり、取材は困難を極め、ライブラリー作りの大切さを痛感しました。

大学講座を一つの契機として、大学と放送局が協力して、ライブラリー作りに取り組み、より完成させたライブラリー作りを目指していくべきです。

また、地元大学と放送局の交流を今後とも繋いでいく必要性を感じました。先生方の豊富な知識を、放送を通じて分かりやすく地域の人々に伝えていく、本当の地に足のついた「カルチャー」が、これを機会に自然体で実現できれば…と、思います。

Ⅲ. 講 座 の 概 要

◎ 科目の概要

科 目 名	中心的なテーマ	科目のねらい内容・方法	放送曜日・時間・期間
道の文化 (ラジオ)	四国及びその周辺に 関係のある「道の文化」 の諸領域を紹介し、解 説する。	<p>四国及びその周辺海域に関係のあるさまざま な「道の文化」を歴史的・多角的に、把握 し、解説を試みる。「道の文化」がわれわれの 現在の生活の基底を形成し、日常生活に深い 影響を与えていることを学びとるとともに、 さらなる文化の創造に向けて考察を進める。 そして、豊かな文化とのふれあいを通して、 うるおいのある地域づくりの道(方策)を探 る。</p> <p>「道の文化」について、人文諸科学の見地 から学際的にアプローチする。</p> <p>第1回は、「道の文化」とはいかなるものか について概観し、「文化」・「パーソナリティ」・ 「社会」の相互関連性の視点から、パーソナ リティの形成とコミュニティの形成に向けて の「道の文化」への導入を試みる。第2回は、 石の道を通じて、古代文化の特質を解説する。 第3回・第4回は、文化の交流をへだてる機 能とつなぐ機能の両面から、海の道を考察し、 文化の交渉誌を素描する。第5回・第6回は、 四国の特色ある道としての遍路道と金毘羅道 を扱い、風景としての道、歴史としての道を 論じ、さらに人々とのかかわりをも考える。 第7回・第8回は、金毘羅への道を弥次・北 道中の膝栗毛の話をもとに解説し、また四国 の文学碑を訪ね、歴史や文学にかかわる道を 紹介する。第9回・第10回は、食と衣に関連 し、多彩な四国の茶の道について紹介し、ま た讃岐三白のうちの一つである綿を中心に衣 の道についても述べる。第11回は、カリコ牛 の道について農耕の歴史と関連して解説する。 第12回は、自然の水の道と人工の水の道を訪 ね、水と人間のかかわりの諸相を探る。最終 回では、これまでの「道の文化」の内容を踏 まえ、「道の文化」を現代的に生かし、パーソ ナリティの形成に役立てていくとともに、生 涯学習のまちづくり・むらづくりを進めてい く際の課題と展望を述べる。</p>	<p>香川県 西日本放送(RNC) 毎週土曜日 午後6時30分～ 午後7時00分 平成3年10月12日～ 平成4年1月4日</p>
			<p>徳島県 四国放送(JRT) 毎週日曜日 午前6時30分～ 午前7時00分 平成3年10月6日～ 平成3年12月29日</p>
			<p>愛媛県 南海放送(RNB) 毎週日曜日 午前9時00分～ 午前9時30分 平成3年10月6日～ 平成3年12月29日</p>
			<p>高知県 高知放送(RKC) 毎週日曜日 午前8時30分～ 午前9時00分 平成3年10月6日～ 平成3年12月29日</p>

◎ 科目の構成
(ラジオ科目) 道の文化

放 送 回 (月 日)					中心テーマ	各 回 の 内 容	担当講師等
回	西日本放送 (香川県)	四 国 放 送 (徳島県)	南 海 放 送 (愛媛県)	高 知 放 送 (高知県)			
第 1 回	10月12日	10月6日	10月6日	10月6日	「道の文化」 とは	<p>四国の文化について語るとき、遍路道やこんぴら道などの「道」を抜きにしては語るができない。</p> <p>まず、この講座でとりあげる「道」とは何か、「文化」とは何かを述べる。</p> <p>次に、「道の文化」がわれわれ個々人のパーソナリティに深い影響を与えているとともに、地域社会の生活・文化の諸局面にも深い影響を及ぼしていることを指摘し、さらなる文化の創造と新たな地域社会（コミュニティ）の形成に向けて思索を傾ける際にもこのような「道の文化」に対して深い洞察をめぐらしておくことが大いに有効であることを提示する。</p>	<p>教育学部 教授 渡辺 安男</p> <p>教育学部 教授 丹羽 佑一</p> <p>教育学部助教授 山下智恵子</p>
第 2 回	10月19日	10月13日	10月13日	10月13日	古代の道	<p>讃岐の古墳文化の特徴を伝えるものに「積石塚」、「石棺」がある。積石塚は高松市石清尾山が有名であるが、坂出市・善通寺市等に知られる。石棺は全域に分布するが、中西讃では国分寺町の鷺の山石が用いられている。最近、大阪平野東南部柏原市で積石塚が発見された。同市では鷺の山石製の石棺も知られている。両地域は畿内政権の大陸交通の要衝である。この結びつきを通じて讃岐の古代文化の特質を解説する。</p>	<p>教育学部 教授 丹羽 佑一</p>

第 3 回	10月26日	10月20日	10月20日	10月20日	海の道Ⅰ	<p>日本列島縁辺の、海という風土（自然環境）が、日本民族ないし四国地域の文化（生活体系）をどのように刻印して来たか、逆に人々が海にどのように相対して来たかについて垣間見る。別して、或いは文化の関所（へだてる機能）としての、こうしたうらはらな海の二面性（両機能）に即しながら、文化交渉誌の素描を試みる。</p> <p>海の道Ⅰでは、まず、文化交流における海の機能について通観し、その上で、黒潮（日本海流）を素材にしながら、文明の回廊としての地中海との比較・南方地域（ことにネシアの世界）との連環性・大航海時代の余波等に視線を向ける。</p>	教育学部 教授 角 節郎
第 4 回	11月2日	10月27日	10月27日	10月27日	海の道Ⅱ	<p>海の道Ⅱでは、前段での事柄を背景に曳きながら、瀬戸内海をフィールドにして、文化圏ないし文化の十字路としての性格・北前船の文化誌的意義・文化の飛石としての島々等に視点を合わせ、結びとして、海に関わる（わけて海に生きる）人々の生き方の在りかたについて点描する。</p>	
第 5 回	11月9日	11月3日	11月3日	11月3日	遍路道	<p>遍路道は四国の道として全国的に知られている道である。遍路はどういう道を歩いたのかを考えてみる。四国の四県の道は発心の道場（徳島）、修行の道場（高知）、菩提の道場（愛媛）、涅槃の道場</p>	教育学部助教授 稲田 道彦

						(香川)といわれる。遍路の道がどういう所を通り、立ち寄る八十八カ所のそれぞれの寺院がどんな所にあるかということを通じて、遍路の歩いた道を考える。	
第 6 回	11月16日	11月10日	11月10日	11月10日	金毘羅への道	江戸時代において、全国的に民衆の信仰の対象として参詣が盛んであったものの一つに、讃岐の金毘羅がある。金毘羅は那珂郡の内陸に位置しており、金毘羅への参詣の道として高松・丸亀・多度津・阿波・伊予の各街道があった。これらの金毘羅五街道について、金毘羅参詣とのかかわりや、各街道のようすなどについて述べる。	教育学部 教授 木原 溥幸
第 7 回	11月23日	11月17日	11月17日	11月17日	道のことば ー金毘羅参詣続 膝栗毛 初編ー	東海道中膝栗毛のあまりの好評に、版元より続編を依頼された江戸の戯作者十返舎一九は、主人公弥次郎兵衛と北八を大坂から金毘羅へと向かわせる。膝栗毛本編に比べて、あまり知られることのない続編のはじまりである。今回は、この「金毘羅参詣続膝栗毛初編(上下)」に登場する讃州者たちの話している「さぬきのことば」に耳を傾けてみる。	教育学部助教授 柴田 昭二
第 8 回	11月30日	11月24日	11月24日	11月24日	詩歌の道 ー四国の道の文学碑ー	四国の道にある文学碑を訪ねる。詩碑、歌碑、句碑などについて成立や、風景との調和、作品の解釈などから鑑賞し、四国の詩情を探究する。文人	教育学部 教授 笹本 正樹

						が生誕したところの作品と、他から文人がきて作品をつくった場合との二つの種類が分かれることになる。また文学碑はなくとも、歴史や文学にかかわる道をも紹介する。	
第 9 回	12月7日	12月1日	12月1日	12月1日	お茶の道	照葉樹林帯に位置する四国には茶の博物館とでも言えるほど様々な茶が存在している。中国からの伝来とされる茶ではあるが、タイ・ミャンマー北部から中国南部・雲南省にみられる極めて特殊な発酵茶が阿波番茶及び碁石茶として徳島県・高知県の山間部に現存している。この講座ではこれらの茶も含めて多彩な四国の茶の道について解説する。	教育学部 教授 宮川金二郎
第 10 回	12月14日	12月8日	12月8日	12月8日	衣の道	木綿が庶民の間で着られるようになったのは江戸時代末期以降である。麻から木綿への転換は「衣の革命」といえるほどの大きな出来事であった。「衣の革命」をもたらした綿作、綿業と綿織物について四国地方を中心に概観し、化学繊維時代の今日なお貴重な衣素材である木綿の魅力について述べる。	教育学部 教授 田中 正子
第 11 回	12月21日	12月15日	12月15日	12月15日	カリコ牛の道	主として徳島の山分（サンプン）地帯から香川の農村地帯へ出稼ぎにきたカリコ牛（借耕牛）は全国の役蓄労働移転現象の中では最大規模の一つであり、香川側では得	名誉教授 歳森 茂

						<p>難しい労働力を、徳島側は貴重な米を得た。牛をひいて歩いた道は農民と牛の汗と苦しみの道であり、さまざまな哀歓を含む。これらの紹介、他地域の類似現象との比較、カリコ牛の経済等を紹介する。</p>	
第 12 回	12月28日	12月22日	12月22日	12月22日	水の道	<p>古来、水と人間のかかわりには深いものがある。四国に生きる人々も生産や生活のあらゆる場面で、ある時は水に従い、ある時は新たな水の流れを創り出しながら地域の文化を発展させてきた。ここでは、川・水路・水道など自然の、また人工の水の道を訪ね、水と人間のかかわりの諸相を知ることにより四国文化の一面に触れる。</p>	教育学部助教授 新見 治
第 13 回	1月4日	12月29日	12月29日	12月29日	まちづくり・むらづくりの道	<p>前回までの「道の文化」の内容の一端を生かし、まちづくり・むらづくりを進めている事例を数例紹介し、このような豊かな文化とのふれあいのある、うるおいのある地域づくり・コミュニティ形成の道（方策）を探る。</p> <p>そして、このように「道の文化」を、あるいは継承し、あるいは創造的に変革し、現代に大いに生かし、個々人のパーソナリティの形成に役立てていくとともに、生涯学習社会の形成と充実・発展に役立てていくべきことの必要性を論じ、あわせて今後の課題と展望をも述べる。</p>	教育学部 教授 渡辺 安男

◎ 受講生の応募等

ラジオ講座 598名

◎ スクーリング

(ラジオ科目) 道の文化

実 施 場 所		実 施 日 時
県 名	会 場	
香 川 県	香 川 大 学	平成4年1月26日(日) 15:20~17:00
	香川医科大学	平成4年2月2日(日) 15:20~17:00
徳 島 県	徳 島 大 学	平成4年1月26日(日) 15:20~17:00
愛 媛 県	愛 媛 大 学	平成4年1月26日(日) 15:20~17:00
高 知 県	高知医科大学	平成4年2月2日(日) 15:20~17:00

◎ 再 視 聴

(ラジオ科目) 道の文化

実 施 場 所		実 施 期 間 ・ 日 時		
県 名	会 場	第 1 回	第 2 回	第 3 回
香川県	香川大学	平成3年11月3日(日) 第1回放送分13:00~13:30 第2回放送分13:35~14:05 第3回放送分14:10~14:40 第4回放送分14:45~15:15	平成3年12月1日(日) 第5回放送分13:00~13:30 第6回放送分13:35~14:05 第7回放送分14:10~14:40 第8回放送分14:45~15:15	平成4年1月19日(日) 第9回放送分13:00~13:30 第10回放送分13:35~14:05 第11回放送分14:10~14:40 第12回放送分14:45~15:15 第13回放送分15:20~15:50
	香川医科大学			
徳島県	徳 島 大 学			
愛媛県	愛 媛 大 学			
高知県	高知医科大学			